



「あなたは、何ができますか」

「私には夢がある。肌の色でなく、人格の深さで、この国の人達が評価される国になることを…」と歴史に残る演説の後、1968年に暗殺されたアメリカのキング牧師の言葉が、2009年1月20日アメリカで実現しました。

アメリカ史上初めての、黒人の大統領オバマの誕生です。



アメリカは移民の国で（今は一部制限がありますが）いろんな国の人達が自由を求めてやってきます。でも、誰でもアメリカの市民権を取れるかというとそうではありません。

かつて、アメリカにやってきたベトナムの難民たちは、アメリカは「自由の国」だけなく、「自立の国」だと知らされたそうです。入国するために質問されたのは、「あなたは何が出来ますか」という質問です。

アメリカに入った後、あなたは「何をして働くことができるのですか。」ということです。「働く」というのは「はたを楽にする」＝周りに人たちを楽にしてあげるという意味からきた言葉です。

あるベトナム人は、「私はベトナムの大学を出て、高校で先生をしていました。」と言ったそうです。それに対してかえってきた質問は「あなたは英語が話せますか。アメリカの高校で英語を使って授業ができますか」「できない」がそのベトナム人の答えでした。その人は、大学を卒業していても、違う国に行けば自分は何もできないことを知ったそうです。

これは、今も同じで、アメリカで働くためのビザ許可書をもらうためには、ビジネス英語が出来ること。4年制の大学を出ていること。アメリカにメリットのある技術や知識を持っていることが最低条件です。これが世界の現実です。

皆さんは、今「あなたは何ができますか。」「何をして働きますか。」と聞かれた時に「私は〇〇ができます。〇〇をして働き、周りの人たちを楽にできます。」と言えますか。

簡単な質問ですが、大変答えにくいのが、この「あなたは何ができますか。」という質問です。これから生きていく皆さんにとって「あなたは何ができますか」と言われたときに答えられるような実力をつけておくことが大切です。



もう一度言います。あなたは何ができますか。
何をして周りの人を楽にできますか。
答えられる人間に成長してください。

（校長 太田忠男）